



1 単元における学習評価の進め方

単元における観点別学習状況の評価を実施するに当たり、以下のように進めることが考えられる。

評価の進め方	1	単元の目標を作成する	<ul style="list-style-type: none"> ①、②については、学習指導要領の目標や内容、学習指導要領解説、生徒の実態、前単元までの学習状況等を踏まえる。
	2	単元の評価規準を作成する	<ul style="list-style-type: none"> ③については、①、②を踏まえ、評価場面や評価方法等を計画する。 どのような評価資料を基に、「おおむね満足できる」状況(B)と評価するかを考えたり、「努力を要する」状況(C)への手立て等を考えたりする。
	3	「指導と評価の計画」を作成する	
	4	授業を行う	<ul style="list-style-type: none"> ③に沿って観点別学習状況の評価を行い、生徒の学習改善や教師の指導改善につなげる。
	5	観点ごとに総括する	<ul style="list-style-type: none"> ④については、集めた評価資料やそれに基づく評価結果などから、観点ごとの総括的評価(A、B、C)を行う。

2 「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成方法

「主体的に学習に取り組む態度」については、学習指導要領に示す「2 内容」に「学びに向かう力、人間性等」に関わる事項が示されていないことから、次の【「主体的に学習に取り組む態度」のポイント】を踏まえて、単元の評価規準を作成する。

【「主体的に学習に取り組む態度」のポイント】

- ① 各分野に応じて、次の表記を基に、評価規準を作成する。
 - ◀地理的分野>>◀歴史的分野>>
「…について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究（解決）しようとしている」
 - ◀公民的分野>>
「…について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている」
- ② ①の「…について」の部分は、「内容のまとめり」で対象とする、学習指導要領上の「諸事象」を当てはめる。
- ③ 「追究（解決）しようとしている」部分の表現については、次の内容に留意して作成する。
 - ◀地理的分野>>◀歴史的分野>>
「思考・判断・表現」の「内容のまとめりごとの評価規準」に「構想」の語を記載した項目のみ「追究、解決しようとしている」と表現し、他は「追究しようとしている」と表現し、書き分ける。

(1) ケース1 「内容のまとめり」を単元とする場合

図 公民的分野における項目構成とケース1の位置付け

大項目	A 私たちと現代社会		B 私たちと経済		C 私たちと政治		D 私たちと国際社会の諸課題	
	中項目 (=内容のまとめり)	(1) 私たちが生きる現代社会と文化の特色	(2) 現代社会を捉える枠組み	(1) 市場の働きと経済	(2) 国民の生活と政府の役割	(1) 人間の尊重と日本国憲法の基本的原則	(2) 民主政治と政治参加	(1) 世界平和と人類の福祉の増大

中学校学習指導要領 第2章 第2節 社会〔公民的分野〕D 私たちと国際社会の諸課題

「内容のまとめり」… (1) 世界平和と人類の福祉の増大（一部）

〔公民的分野〕 2 内容
D 私たちと国際社会の諸課題
(1) 世界平和と人類の福祉の増大
対立と合意、効率と公正、協調、持続可能性などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
ア 次のような知識を身に付けること。
(ア) 世界平和の実現と人類の福祉の増大のためには、国際協調の観点から、国家間の相互の主権の尊重と協力、各国民の相互理解と協力及び国際連合をはじめとする国際機構などの役割が大切であることを理解すること。その際、領土（領海、領空を含む。）、国家主権、国際連合の働きなど基本的な事項について理解すること。

内容のまとめりごとの評価規準

主体的に学習に取り組む態度

世界平和と人類の福祉の増大について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

「知識・技能」と「思考・判断・表現」については、学習指導要領に示された「…理解すること」「…表現すること」などの文末の記述を、「…理解している」「…表現している」かどうかの学習状況として表します。



(2) ケース2 「内容のまとめり」の一部を単元とする場合

図 地理的分野における項目構成とケース2の位置付け

大項目	A 世界と日本の地域構成	B 世界の様々な地域					C 日本の様々な地域			
中項目 (=内容のまとめり)	(1) 地域構成	(1) 世界各地の人々の生活と環境	(2) 世界の諸地域				(1) 地域調査の手法	(2) 日本の地域的特色と地域区分	(3) 日本の諸地域	(4) 地域の在り方
小項目等		① ②	③ アフリカ州	④	⑤	⑥			① ② 中国・四国地方	③ ④ …

内容のまとめりごとの評価規準(例) [C(3)「日本の諸地域」、小項目「中国・四国地方」]

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 幾つかに区分した日本のそれぞれの地域について、その地域的特色や地域の課題を理解している。 ・ ①から⑤までの考察の仕方を取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本の諸地域において、それぞれ①から⑤までで扱う中核となる事象の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本の諸地域について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

左の評価規準(例)の記載事項を基に、それを細分化しつつ具体化した「単元の評価規準」を設定します。

主体的に学習に取り組む態度

・ 中国・四国地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

ケース3については、学校、地域、生徒の実態等に応じて設定するため省略します。

3 単元の評価規準【主体的に学習に取り組む態度】

2 (1) ケース1の事例…(公民的分野) 単元名「世界平和と人類の福祉の増大」

・ 世界平和と人類の福祉の増大について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。【態】

4 単元の指導計画及び評価の具体的な場面(一部)

「主体的に学習に取り組む態度」については、国際社会に関する学習に対して、自らの学習を調整しようとしながら粘り強く取り組み、世界平和と人類の福祉の増大のために、主体的に社会に関わろうとする態度について評価する。本事例では、第一次から第六次(全15時間)の第六次(単元のまとめ)において、次の資料の「3 単元の学習を終えて」の部分の記述によって評価する。

資料 「学びのあしあと」(単元で用いるワークシート)

学びのあしあと

1 はじめに ～見通しをもって単元の学習に臨もう～

単元を貫く問い
「世界平和と人類の福祉の増大のために、日本はどのような役割を果たしていべきだろうか。」

現時点での考え
(これまでの学習から、「世界平和と人類の福祉の増大」のために取り組むべき事にはどのようなことがあたらよりよくなるだろうか。)

必要な情報とその情報の入手方法

2 単元の学習の途中で
(単元を貫く問いについて考えたことや友人や先生の話したことや心に残ったものをメモしておこう。)

「3 単元の学習を終えて」を記述させる際、「2 単元の学習の途中で」を参考にさせたり、単元の始めに立てた見通しに立ち返って振り返るよう助言したりするなどの支援も考えられます。

3 単元の学習を終えて

この単元の自分自身の学習への取組 (線の上に○を書こう。)

よい 3 2 1 よくない

今後の学習や生活に生かしたいこと

これからも考え続けていきたいこと(それは、社会にとってどのような意義があるの?)

ひいくん
前単元の自己評価は「2」だったけれど、本単元は頑張ったので、「3」にしました。

記入した生徒の、該当単元における取組とそれ以前の取組の違いを捉えるために利用できる。あくまでも評価者は教師であるが、評価する際の手がかりの一つとなる。

むうちゃん
ひいくんの意見をもとに自分の考えを修正したところ、修正前よりよいものができた。次の学習でも異なる考えを聞きながら自分の意見を考え直すことを大切にしていきたい。

今後の学習や生活に生かそうとすることを見いだしており、「おおむね満足できる」状況(B)と判断する。

かあくん
全ての人々の安全保障が、我が国の安全とも深く関係していると思うので、紛争やテロの問題を解決したい。

「これからも追究していきたいこと」を挙げるとともに、その社会的意義を簡単に記述しており、「おおむね満足できる」状況(B)と判断する。